

「学び合い」で学力を

校長 早川 久吾

12月2日（金）。新発田市・五十公野小学校で、「学び合い」という考え方に基づく研究会が行われました。私は、ひたひたと子ども相互が肩を寄せ合い、教え教わり、学び合う授業を見ました。私の長い教師生活の経験を踏まえても、これは大変優れた指導法ではないかと感銘を深くしました。



1/30 大縄跳び練習の様子

五十公野小学校をはじめ、全国の学校に「学び合い」の理論と実践を提唱している先生は、上越教育大学の西川純先生です。西川先生は、ご自分が高校教師であったときに、「クラスの一見捨てずに、わかる授業」を求め続けたといいます。そして、「ク

ラス全員にわからせるのは、一人の教師では無理。クラスみんなでやらねば。」という、言ってみれば当たり前の結果を得たそうです。また、「クラスみんなで課題を達成するために、協力したり学び合おうとするとき、クラスの間関係も改善される」ということがわかったといいます。つまり、「教科の学習と生徒指導の双方で効果をあげる」それが、「学び合い」だということです。

「学び合い」の授業では、子ども相互が互いに学び合い、わからないことを互いに聞き合い、自発的に学習していきます。教師は、クラス全員の課題が達成できるよう、子ども相互が助け合うことをサポートします。この方法で一斉授業の時よりも成績があがり、子ども相互の間関係がよくなったクラスが全国で次々に生まれています。

1月24日（火）の午後、当校の上村教務主任、平野教諭、早川で上越教育大学の西川純先生の研究室を訪ねました。西川先生は、私に、

『「学び合い」であなたは、御校の子どもに何を求めるのですか。』と鋭く尋ねました。私は、

「子どもの学力を向上させたい。やらされる感でなく、やる気をもって学習に取り組む。そして、結果として全員の学力が上がることを求める。」

と答えました。西川先生は、

「（「学び合い」を）やれば、間違いなく学力は向上します。どうせやるなら徹底してやった方がいいですよ！」と答えてくれました。こんな会話を振り出しに、「学び合い」学習とはどのようなものか、色々なアドバイスを頂くことができ、大変有意義な訪問となりました。

当校では、春から「学び合い」の授業に取り組みたいと考えています。まだ、よちよち歩きからのスタートですが、教職員全員が一丸となって進みたいと思います。当校の学力、そして人間関係の力は更に向上するでしょうか。どうぞ、見守ってください。

大成功の「岡一サンキュープロジェクト」

1月17日（火）、今年の給食週間の大きな取組として、「おかイッチ」が登場しました。これは、地元産の旬な食材や郷土色を取り入れた、岡一小版サンドイッチで、全校の児童や保護者の皆様からいただいたアイデアから生まれました。

この取組の趣旨にマスコミが関心を寄せ、テレビ局ではNSTとTenyの2社が、新聞では新潟日報が取材に訪れました。もうご存じの方も多いのではないかと思います。テレビでは、1月17日（火）の6時から放送されました。また、新潟日報では1月20日（金）に紹介されました。

地元を大切にした当校の食育のよさが、評価されたのだと喜んでおります。

本年度は、「岡一サンキュー・プロジェクト」として、「おカレッヂ」と「おかイッチ」に取り組み、児童・保護者・地域の皆さんから、郷土を見直し、ふるさとへの誇りを感じてもらいたいと活動してきました。今回、マスコミに取り上げられ、紹介されたことで、この活動への手応えを感じることができました。

2012年は、岡方第一小学校創立140周年の年です。岡方の中心として、地域の皆様に支えられて続けてきた伝統ある岡一小への思いを皆様でまた新たに作る年になってほしいと願っています。



家庭教育講演会（豊栄地区公民館・PTA文化教養部共催）

1月25日（水）、保護者等53名が参加して新潟大学教育学部の長澤正樹教授より、「家庭教育の大切さ～子どもを伸ばす10のポイント～」をテーマに講演をしていただきました。

長澤先生は特別支援教育が専門で、児童の発達に大変お詳しく、新潟市のいじめカウンセラーやスクールカウンセラーでもあり、児童や生徒の実態もよくご存じです。その経験に基づき、一人ひとりの個性に応じてどのように伸ばしていけばよいか、具体的な言葉かけなども示しながらお話してくださいました。

安定した生活習慣の大切さと育て方や、自己肯定感の育て方など、すぐその日から役立つことを教えていただきました。

参加した保護者の皆様は、お子さんへの対応に、これからは自信を持って対応できることと考えます。

なお、長澤先生の講演の資料の余分がまだあります。興味のある方には、お子さんを通して、お渡しすることもできますので、教頭又は担任へ連絡ください。

